

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



2018/05/20

- ① 標準色（COD）平均値 6 反応時間 20.5 分
- ② 透視度 平均 54 cm
- ③ 川幅 24.7 m
- ④ 左岸 55 cm 中央 79 cm 右岸 64 cm
- ⑤ 水辺の状況 自然環境が良く保たれている。

水質調査
 で川の副産物（川の距離）
 を計測は初めて。

今回の調査は①川の左岸右岸の距離、②COD 観察、③川の水深、④川の水の透視度。以上4点を中心に調査した。

現在小・中・高等学校において環境教育の重要性が指摘されるが、実際には教材開発を含めて何となくせめてあげようからという声が多い。事業は、まもなく終わっている。環境教育の内容は、学校によっては、花を植える、ゴミを捨てる、いわば校内の美化運動を環境教育に位置付けているところも少

環境教育の現状

現在小・中・高等学校

川の中心部
 水深測定



2018/05/20

▲ 水質調査

水質調査の
 川の水採取

▼ 川幅の確認、水深のチェック



2018/05/20



2018/05/20

「環境学からみた環境教育」
 幼少↓感性
 小学生 ↓ 感性 + 経験
 中学生 ↓ 経験 + 知識

「環境学からみた環境教育」
 幼少↓感性
 小学生 ↓ 感性 + 経験
 中学生 ↓ 経験 + 知識

行く。またもう少し「環境教育」に近いものとして「自然に親しみ自然を知ろう」という「種の自然教育」とも言えるもので、これは比較的多くの学校で取り組まれている。

しかし、これは基本的に理科教育の一つに過ぎないものが多い。もちろん「環境教育」といっても、その内容は、重要な要素を占めていることは言うまでもないが、これをもって「環境教育」というのは疑問が残る。

高校生 ↓ 知識 + 働きかけ
 大学生 ↓ 知識 + 働きかけ + 運動



2018/05/20